

AGRI FACT を利用しつづけて

2020年11月17日、種苗法改正案が衆議院農林水産委員会でも自民、公明、維新、国民の4党の賛成で可決された。反対したのは、立憲民主、共産、社民の各党。総理大臣をはじめとした与野政治家の揚げ足を取ることでできない野党にとって種苗法改正案は美味しいネタであったようだ。しかし、当初はメディアも活動家のデマを信じて疑問を呈する報道もあったものの、やがては冷静さを取り戻し、粛々と法案が成立した。

種苗法の改正によってこれまで許されてきた自家増殖が許諾制になる。事情を知らない人々は、反対派のデマによってこれまで種を買わずに自家増殖を続けてきた、貧しく弱い立場にあるお百姓さん、を苦しめることになると誤解させられた。流行りのTVタレントまでネットで、お百姓さんが可哀そうの声を上げることになり、ネットを通じてデマを垂れ流す種苗法改正反対派の黒幕である元農水大臣の山田正彦氏は手を叩いて喜んでい

ではあるまいか。コメ作りをする小さなお百姓さんが作るのとはほとんどがコシヒカリな

ど地域で食味が高いと言われる作り慣れた品種。ほとんどの品種は登録以来25年以上を経た自家増殖が自由なものである。実際にはほとんど影響はないにもかかわらず、山田氏は農水省が行なった調査のデータを意図的に誤読して大げさにデマを流し続けた。その嘘をラジオのインタビュアー番組で指摘されるとしどろもどろの詭弁を弄した後に「君とは話したくない」などと言ってスタジオから逃げ出してしまおうという赤恥を掻いていた。

これに限らず、種苗法が改正されると、「モンサント社(現バイエル社)などの巨大種子資本に日本の農業は支配されてしまう」などと荒唐無稽な批判までしていた。その背景にあるのは遺伝子組み換え作物の反対であるが、そもそも我が国では現実的に組み換え作物は栽培できない状態にあることからその議論がいかに頓珍漢なものであるかがわかる。

種苗法反対を叫んでいるのは「遺伝子組み換え」「ラウンドアップ」「PPP」に反対した人々。彼らは、種苗法反対と同様にありもしないデマを流して人々を惑わしてきた。しかし、こうしたデマを流し続け

る人々の影響力はSNSの利用が盛んになるにつれて大きくなる。さらに問題なことは、大衆受けして人々の不安を煽る話題に、とりわけ共産、立憲民主、社民が飛びつきやすい。科学的根拠や冷静な知見に基づく議論ではなく、週刊誌の報道レベルで政府に対する反対のための反対を繰り返す野党の姿を見るとその危うさを感じずにはいられない。さらに、人々の自然回帰の願望、科学的根拠によってではない農業や原子力技術をはじめとした科学技術に対する漠然とした不安感を煽る言葉が政策に影響を与える傾向が強まっている。すでに欧米ではそうした勢力が力を増し、我が国でもそうした傾向が顕著になってきている。

小社がネットで展開している「AGRI FACT」は世間に広がる農業に関するデマに対して科学的根拠のある事実とは何であり、デマについて科学的根拠を示してその誤りを正すことを目的としている。そこでは除草剤ラウンドアップ(グリホサート)に対する間違った認識を正すことに始まり、種苗法などに対しても話題を広げてきている。

農業の健全な技術改革と人々に農業技術の安全性と安心を提供していくために、読者諸氏もその情報を広めていただきたい。

江刺の稲

「江刺の稲」とは、用排水路に手刺しされ、そのまま育った稲。まったく管理されていないこの稲が、手をかけて育てた畦の内側の稲より立派な成長を見せている。「江刺の稲」の存在は、我々に何を教えるのか。土と自然の不思議から農業と経営の可能性を考えたい。